

声にならない声を大切にする環境づくり



◇プラスチック削減に向けて◇
●**収集袋の有料化**が始まりもうすぐ1年。**効果や変化を市民に分かりやすく公開**することが必要と考えますが、いかがでしょうか？
➡一般廃棄物処理実施計画の結果を踏まえ、周知や啓発などの必要な手法を考えていきます。
◇子どもたちを取り巻く環境◇
●**GIGAスクール構想**により子どもたちが**WiFi環境下に置かれる時間が急増**しています。**電磁波過敏症**等の相談があった場合は、早急な対策を。
➡健康相談があった際は、救急対応を含め、症状に応じた配慮や対応を引き続き行います。
➡本来ならば**予防原則に則った対策**を要望する。

●タブレット導入効果は一定ありますが、睡眠の質の低下や依存度の高さ等、**使い過ぎによるデメリット**も指摘されます。これらの周知は？
➡健康についてのリーフレットの配布等、GIGA端末の適切な活用について指導していきます。
◇不登校児童・生徒への支援◇
●支援策である**トライルーム**は、学校での相談を経た上で登録・体験入室となっており、ハードルを感じる方もいます。学校との連携は？
➡生活指導主任会やトライルーム連絡会等で情報共有し、連携強化に努めています。
➡トライルームでの**直接登録・体験入室**を望む方に、**柔軟に対応**していくよう要望する。

国分寺・生活者ネットワーク
松岡 まり



◇妊娠期からの切れ目のない支援◇
●完全予約制や産婦限定となっている**産婦・育児相談**には、再考の余地があると考えます。**仕様の見直しや今年度の方針**は？
➡地区拠点親子ひろばと連携し、専門職との相談会後は参加者同士の交流会を行います。
●育休男性が増えている中、**父親の相談先**についてどのように進めるのでしょうか？
➡親子ひろばで開催される父親参加イベントの周知を工夫し、母親・父親と分けることなく、父親も相談可能であることを周知します。

ぶんバス 高めよう市役所への利便性



☆**ぶんバス「北町ルート」東戸倉にバス停を**
星)市役所方面行きのぶんバス「北町ルート」において、五日市街道「西武線踏切」から府中街道「恋ヶ窪交差点南」間にはバス停がない。その距離1.1kmである。特に高齢者にとって「バス停が遠く、ぶんバスを利用できない」との多くの声をお聞きしている。府中街道の東戸倉エリアに新たなバス停を設置すべき。
市)窪東公園付近の住民から要望があるため、バス停の設置を検討する必要があると考える。路線バス事業者との協議が必要なので、話し合いを実施したい。
☆**ぶんバス「日吉町ルート」市役所を起点に**

星)富士本・戸倉などを通って市役所方面に向かう「日吉町ルート」の終点は、交通広場にある「西国分寺駅東」バス停となっている。そこで15分間の待機時間が発生している。「なぜ、市役所の一手手前のバス停で15分も待たなければならないのか」との利用者の声は多い。起終点を「国分寺市役所」バス停に変えるべき。
市)対応できるのかどうかをバス事業者に確認する。
星)次の議会で状況を確認させていただく。
☆**知的障がい者の移動を支えるために**
星)中学校の特別支援学級から放課後を過ごす学童保育所等に移動する手段の確保を求める。

立憲・市民フォーラム
星 いつろう



ファミサポは6年生以上も利用対象にすべき。
市)現状では、支援いただく援助会員の確保が厳しい。
星)ガイドヘルパーさんによる「移動支援事業」は利用範囲が「余暇活動」に限定されている。「生活のための移動」まで拡大していただきたい。
市)ニーズがあることは把握している。しかし、ガイドヘルパーの確保が難しく、今でさえ利用希望に応えることができていない。利用目的の拡大は慎重に考える必要がある。

災害時のトイレは量と質、空白地域の解消を



■**防災について** (問)市職員と地域住民による「地区防災センター開設アクションカード」を活用した訓練が実施された。学校教職員との共有や訓練も必要➡教育委員会と連携し教職員の訓練参加について検討したい (問)市の施設ではない都立国分寺高校や東経大との連携は？➡信頼が重要。訓練等の機会に施設側職員との顔合わせや地域住民との意見交換など実施したい。
*他にトイレの確保や災害時の医療体制を質問
■**空き家対策と居住支援** (問)空き家になる前の対策強化が重要。10/1施行の「居住サポート住宅」について関係団体と共有を➡居住支援法人等が大家と連携して住宅要配慮者への住宅供

給をしやすいとする制度で市長が認定。不動産業者、居住支援法人等に周知し制度活用の相談には真摯に対応する。住宅と福祉が連携した地域の居住支援体制の強化を図る
■**ヤングケアラー** (問)ヤングケアラーを取り巻く実態調査は支援への第一歩。社会に対して問題意識を喚起する効果も期待できる。実態調査を➡他自治体が実施した調査内容や方法を調査中。結果を踏まえ検討する (問)世帯全体を支援し、子どもの負担を軽減するためにも、介護保険や障害福祉サービス等との利用調整を➡対象の世帯に関わる支援関係機関との連携を密に行う (問)学校の体制は？➡今年度からスクールソーシャル

国分寺・生活者ネットワーク
高瀬 かおる



ワーカーを各中学校に1名ずつ配置し小学校にも巡回。兄弟関係等も把握しながら対応を図る。今後も相談体制を整えていく
■**終活支援** (問)人生の最期をどう迎えるかは重要な課題。終活に関する相談や支援のニーズは多く、各相談窓口で様々対応している。包括的な支援の提供を➡市民が必要な情報を得られるように、庁内、関係部署と連携を図りながら取組を検討したい。
■**認知症** (問)軽度認知症は改善するとも言われる。適切な予防策を講じ、認知機能が低下したとしても社会参加しやすい機会の創出を！

もっと！市政にSRHRと若者支援の視点を



性と生殖に関する健康と権利(SRHR)を生かす
すべての生理ある人が安心して過ごせるために
「生理の貧困」の視点から見るジェンダー平等
Q:経済的な理由等から生理用品を買えない方が多くいる。コロナ禍をきっかけに市内5箇所でナプキンの無料配布と、小中学校ではトイレ設置を行っているが、今後も女性の健康と衛生、尊厳を守るというSRHRの考えのもと、ナプキンの無料配布・設置を継続し、配布場所の拡充を。
A:今後も実施を続けつつ、状況を注視する。
予期せぬ／望まない妊娠を防ぐ対策を
Q:性暴力の被害や避妊の失敗等による予期せぬ妊娠を防ぐため、緊急避妊薬(アフターピル)

の販売薬局や、相談窓口の情報提供を。
A:市ではオンライン診療できる産婦人科2件、薬局10件を確認した。処方箋なしで販売している薬局も1件あり、市のHPでの情報提供を研究。
将来不安を抱える若者への支援を拡充しよう
コメ高すぎ問題！無料配布事業を復活させよう
Q:市政に関わりがある若者や市報を読んでいる若者は少なく、困りごとがあっても市に相談しづらい現状。市は2022年に、物価高騰の影響を受ける若者に対し、お米を無料配布する事業を実施した。配布を通して行政と若者がつながるきっかけをつくるこの事業の復活を求めたい。
A:お米の価格の高騰は、全市民に影響がある。

無党派
(グリーンな国分寺)
鈴木 ちひろ



市民全体への支援を考えることとなり、国や都の補助事業を注視しながら研究する。
返さなくていい給付型の奨学金制度の設置を
Q:大学生の約半数が奨学金を利用しているが、大半は貸与型で「借金」。卒業後も約10~20年返済し続けることは、若者にとって大きな負担。小金井市のような給付型奨学金制度の検討を。
A:市独自で奨学金制度を作る考えはない。
★その他、若者議会の設置、気候危機における熱中症対策の拡充、有機フッ素化合物(PFAS)汚染の原因究明などについて質問しました。